



BeNews

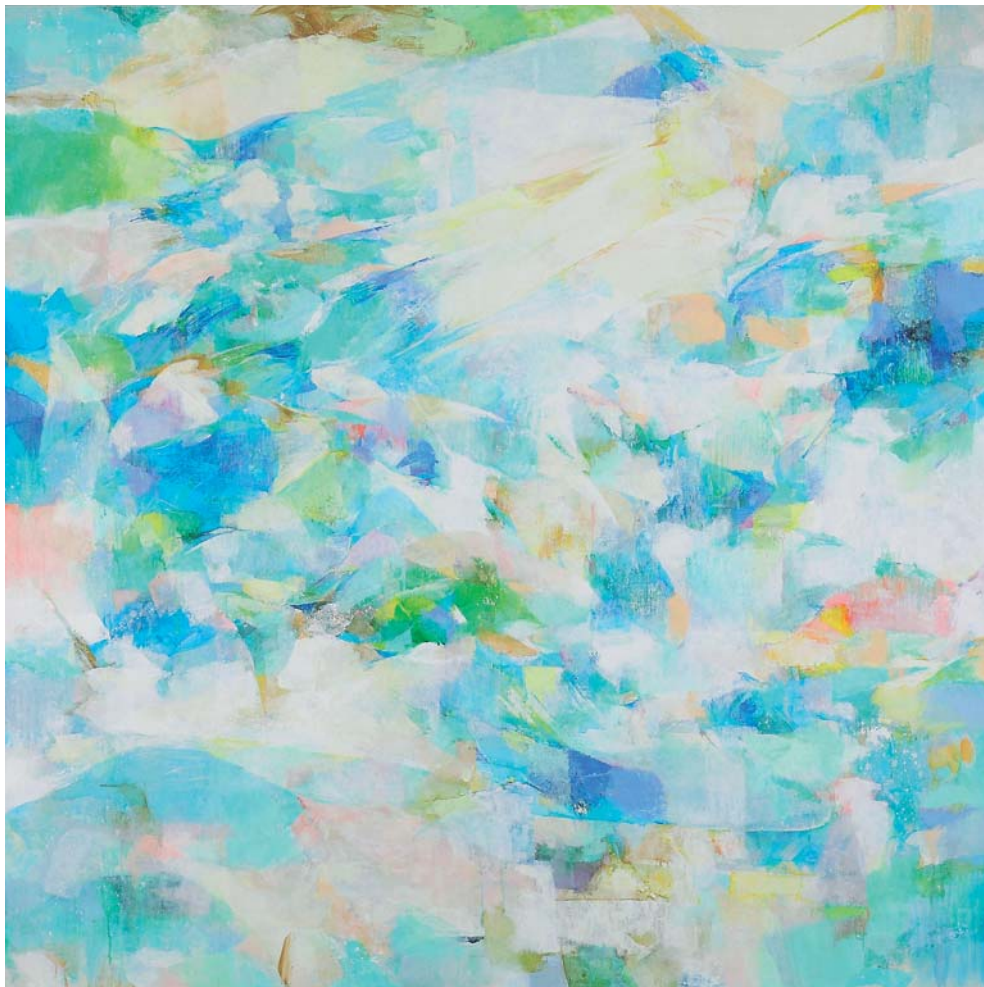
2012.Spring

【特集】

1. 短期大学創立60周年を控えて
大分キャンパスの挑戦……………1-2
2. 別府大学・別府大学短期大学部の高大連携の取組
……………3-4

contents

- 教育CloseUp
国際経営学部挑戦……………5
別府大学短期大学部の就職・進路支援体制……………6
- 研究者インタビュー
角田幸太郎（国際経営学科 助教）……………7
平包 留美（食物栄養科 准教授）……………8
- 国際交流……………9
- いきいき別大生……………10
- がんばってます留学生……………11
- 学園を支えていただいた方々……………12
- 後輩への言葉……………13
- 学園News……………14-17
- 新聞掲載記事・教員の出版コーナー……………18



大田黒 翔代「群」S100 油彩

特集 1 短期大学部創立 60 周年を控えて一大分キャンパスの挑戦

別府大学短期大学部の歴史

別府大学短期大学部
学長 金子 進之助



別府大学短期大学部は1954年4月1日商科・生活科の2科で創設され、初代学長は佐藤義詮先生でした。1962年には併設の自由ヶ丘幼稚園教員養成所を初等教育科として合併し3科の短期大学部となりました。その後、商科・生活文化科・英語科なども設置しましたが、時代の流れに即した改組を行い、2004年より現在の食物栄養科・初等教育科・地域総合科学科・保育科の4科と専攻科（福祉専攻・初等教育専攻）になりました。

大分校舎の歩み

2000年、当時の商経科・生活文化科・英語科の3科が大分に移転しました。3つの学科は、それぞれ、観光や情報関係、福祉（訪問介護士）、国際交流の分野を充実させていき、経営情報文化科を経て、2006年、地域総合科学科へ統合され、さらに同年、保育科が新設されて、現在に至っています。



大分キャンパスの特色

徹底した少人数教育

豊かな環境にめぐまれた大分キャンパスですが、その一番の特徴は、徹底した少人数教育に基づいた、学生と教職員の親密な関係です。2つの科とも、小人数クラス制をとり、入学から卒業まで担当教員が授業や様々な行事を通じてきめ細かな指導を行います。また、体育祭、学園祭では、2つの科の学生で実行委員会を作り、教職員とともに手作りのお祭りを作り上げます。こうして、大分キャンパスの学生は他の大学に見られない一体感を感じることができます。



しよに学んでいます。学園祭では、地元の方による出店もあります。音響に優れたホールやグラウンドは様々な地域の催しに使われ、大分校舎は学外からの訪問者の姿が目立つ独特の雰囲気醸し出しています。

巣立ち、戻ってくる卒業生

このように、きめ細かな教職員の指導や、地域交流などを通じて、大分校舎の学生たちはきわめて高い就職率を誇っています。保育科は100%、また、地域総合科学科でも、この就職難の時代に、毎年90%以上の就職率を達成しています。何よりもうれしいのは、卒業した学生たちが、頻繁に校舎を訪れてくれることです。卒業生が後輩たちに示してくれる先輩としての姿が、大分校舎の教育力の現れです。



充実した地域交流

大分キャンパスでは地域に開かれたたくさんの行事が行われています。たとえば、公開講座は、大学の教員だけでなく、著名な社会人の方をお招きして、学生と地域の人々がいつ

地域総合科学科の教育活動

新しい教育に向けて

地域総合科学科は、2012 年度より、新しいカリキュラムのもとで教育を進めます。これまで、本科ではビジネスの基礎的な力と専門性を組み合わせ「福祉の心を持ったホテル従業員」「コンピュータを使いこなせる福祉施設の職員」などといった人材育成を目指してきましたが、新カリキュラムでは、専門分野を絞り込んで全員がビジネス・福祉・観光に関する基礎科目を学び、より幅広い人間教育を行い、常識ある社会人の育成を目指します。

また、学生がみなノートパソコンを持つことで、より充実したコミュニケーション能力の育成に力を注ぎます。



教育の特色

少人数授業や個人面談を通して常に学生とコミュニケーションを図りながらきめ細かな進路支援を行っています。資格対策では、秘書検定とPC検定は、全員が必ず取得することを目標としています。毎年、国家試験である「国内旅行業務取扱管理者試験」に合格者を輩出しています。

地域貢献は、本科の教育の柱であり、地域ボランティアへの参加は、必修科目となっています。学生たちは「はさま きちよくれ祭り」「おおいた夢色音楽祭」「別府音泉タウン音楽会」等の地域行事に参加するだけでなく、行事によっては企画・運営にまで加わっています。



留学生や海外姉妹校との交流も活発で、こうした行事で培われた社会とのコミュニケーション能力が就職活動にも大いに役立っています。

就職

就職率は毎年90%前後あり、今年度の進路決定率は97%です（3月1日段階）。卒業生は金融機関・一般企業事務・医療事務・福祉施設・旅行代理店・ホテルなど幅広い職場で活躍しています。2011年度のおもな就職先は、大分銀行、大分みらい信用金庫、豊和銀行、大分信用金庫、JR九州、JAおおいた、大分日産自動車、大分東洋ホテルなどです。卒業後も就職の世話をするなどきめ細かなケアを行っています。

取得資格・免許

ビジネス実務士・情報処理士・観光士・国内旅行業務取扱管理者資格・訪問介護員2級・医療管理秘書士・医事管理士・介護保険事務士・司書

保育科の教育活動

目指す保育者像

専門的知識や技術を身につけ、問題意識を持ち、考察・分析する力を宿し、豊かな感性とともに、高い人間性と専門性の向上に努めることができる人を目指します。

教育の特色

少人数制による教育体制でおこなわれています。講義科目だけではなく、体験型の演習も多く取り入れています。1年生の夏には、植田公民館主催の“子どもまつり”に実行委員として参加し、2年生前期には保育園児を大学に招待して、自分たちで創りあげたオペレッタを公演します。その他にも、夏のそうめん流しや秋の焼いもなど季節感あふれる催しを計画し、子どもと共に味わう季節について学んでいきます。



サークルとは別に、「研究会」という活動があります。担当の教員と共に、様々な活動を通して子どもとふれ合い、保育者としての感覚を磨いています。

そして…。「先生、ただいま〜！」と、卒業生たちが帰ってきます。数名集まると自分のクラスの子とも自慢が始まり、とても賑やかです。辛いこと、困っていること、悩んでいることなど、卒業しても大学を訪ねて相談していきます。保育科は、卒業生にとって“ふるさと”になっています。

就職

毎年高い就職率を保っています。この数年は、年明けには、ほぼ100%の就職・進学率を達成し、保育園、幼稚園、施設等に羽ばたいていきます。進学先は、別府大学短期大学部専攻科福祉専攻が最も多く、次に初等教育専攻、他県の4年制大学となっています。

取得資格・免許

保育士証取得資格・幼稚園教諭二種免許状・司書資格・社会福祉主事任用資格

特集2 別府大学・別府大学短期大学部の高大連携の取組

高大連携とは

「高大連携」（あるいは「高大接続」）は、1990年代末ごろより、高校と大学の双方から提起されてきた考え方です。その背景には、高校においては1980年代後半から進められた「教育改革」の潮流があり、また大学においては1990年代以降進行している「ユニバーサル化」の現象がありました。文部科学省もこのような動きを後押しするように、大学の科目等履修制度を高校生にも開放するとともに、大学における修学を高校の単位として認定するといった制度改革を進めてきました。

現在、高大連携の形態は多様化し、大学の授業を高校生が履修し、高校側がそれを高校の単位として認定する単位認定型や大学の教員が高校の授業を担当する授業担当型から、大学で開催するオープンキャンパス、高校に出向する「出前授業」や進路ガイダンスなどの協力支援型まで、さまざまな取組が行われています。

本学も、高校の進路学習と連携しながら、本学を志望する高校生が入学前に大学の雰囲気を感じ、入学後、大学の授業や学生生活に違和感なくとけ込めるよう、積極的に高大連携に取り組んでいます。また、この取組は、本学が使命と考える「地域貢献」の一環でもあります。

以下、本学における高大連携の具体的な取組を紹介するとともに、今後の課題について考えてみます。なお、現在、協力支援型の取組の中には、業者が請け負って実施されているものが多くありますが、ここでは本学と高校との間で独自に実施している取組のみを紹介します。また、オープンキャンパスについては、別に特集を組んで紹介したいと思います。

本学の高大連携の取組

1 別府大学附属明豊学校との取組

本学の附属高校である明豊高等学校とは、2009年7月に単位互換の協定を締結し、本学の授業を明豊高校の単位として認定する制度を設けています。

高校生は本学の科目等履修生として授業を受講し、取得した単位は、将来、本学に進学した場合、大学設置基準に定める通り、入学前の既修得単位として認定することにしています。

後述するように、授業の形態としては、高校生が本学を訪れ授業を受講することが難しいので、本学の教員が明豊高校に出向して授業を開講する方法をとっています。授業は「簿記」を開講し、日商簿記2級を目指しています。

2 大分県立別府青山高等学校との取組

別府青山高等学校は2年次に「探究学習」というテーマ研究型の取組を実施しており、本学は文化・スポーツ、心理・教育（保育）、経済、食物栄養の分野で、次のような協力を行っています。

- ①7月に同校の生徒が本学を訪れ、本学の教員が生徒の設定した研究テーマに関する講義を行うとともに、本学の学生も加わり、研究についてのアドバイスを行っています。
- ②10月に本学の学生が高校を訪問し、生徒の研究報告を聞いて、最終的なアドバイスを行っています。
- ③11月に開催される「探究授業」の研究報告会において、本学の文学部長が講評を行っています。



別府青山高校の「研究報告会」（ビーコンプラザ）

3 大分県立大分西高等学校との取組

大分西高等学校は、別府青山高校と同じく、2年次において「夢ナビ」というテーマ研究型の取組を実施しており、本学は歴史、心理、教育（保育）、食物栄養の分野で、次のような協力を行っています。

- ①同校は1年次の10月に「職業人に学ぶ」という職業研究の取組を行っていますが、本学はこれに講師として教員を派遣しています。
- ②同校は2年次生に「進路研究」というテーマ研究型の取組を行わせ、その一環として8月に各テーマの分野に応じた「大学模擬講義」を実施していますが、本学はこれに講師として教員を派遣しています。
- ③「進路研究」の一環で、9月に行われる「フィールドワーク」という取組に協力し、同校生徒の訪問を受け、本学の教員と学生が授業見学に応じたり、大学生の職業選択や大学の進路教育について、生徒とディスカッションを行っています。



大分西高校の「フィールドワーク」

4 別府市立別府商業高等学校との取組

別府商業高等学校では、3年間を通したキャリア教育の一環として、進学に対する関心を高めるため、高等教育機関と連携した取組が行われており、本学は福祉・心理、経営、教育（保育）の分野で、次のような協力を行っています。

- ①7月に当校の1年次生が本学を訪れ、本学の教員が4大・短大への進学の意義について講話を行うとともに、同校出身の学生が大学生活について自らの体験を紹介しています。
- ②3月に本学教員が同校に出向し、2年次生に模擬授業を行うとともに、同校出身の学生が進路に関するパネルディスカッションに参加し、自らの体験を踏まえ、進学の意義を後輩に伝えています。

日 時	教室	連携事業	担当者	タイトル等
7月6日 (水)	13:45	大学到着		
1年生 (160名)	14:00~14:30	メディアホール 講義I	友永 植	文学部長 進学のメリット
	14:30~14:50	講義II	阿部孝士	短期大学部教授 短大の魅力
	14:50~15:00	懇談会	徳田 愛	食物栄養学科2年 先輩からのメッセージ
	15:00~15:30	校内 学内見学	メディアセンター、図書館、歴史文化総合センター(3階に分かれ見学)	
	15:40	大学出発		

別府商業高校の進学講話等のスケジュール

5 私立福德学院高等学校との取組

福德学院高等学校は進路教育の一環として体験型学習を取り入れており、本学は食物栄養（調理）の分野で、次のような協力を行っています。

- ①12月に当校の健康調理科1年次生を本学に招き、本学の短期大学部食物栄養科において調理実習の模擬授業を行っています。
- ②1月に同科の2年次生を本学に招き、進学への意識を高めるため、短期大学部食物栄養科の授業を見学するとともに、調理実習に参加してもらっています。
- ③6月に同科の3年次生を本学に招き、職業意識の育成を目的に、短期大学部食物栄養科において調理実習に参加してもらっています。



福德学院高校の調理実習(47都道府県の「丼」を作りました)

6 その他の取組

上記の一部の高校との間で行っている連携事業のほか、毎年ではありませんが、大分県立日田三隈高校が実施しているテーマ研究型の取組「PAS Final 面接講演会」へも本学教

員が出向しています。

生徒を対象とする連携ではありませんが、毎年6月に県下高等学校の校長・進路主任を本学に招き、大学説明会を開催しています。また、6月から8月にかけて、大分県下の高等学校に出向し、3年クラス担任を対象とする大学説明会を実施しています。

県外の高校については、高校からの協力の要請があれば、積極的に受け入れています。本年度は宮崎県立都城西校等学校の「夏季宿泊セミナー」に協力し、8月に本学において文学と経営の分野のセミナーを開講しました。

日 時	教室	連携事業	担当者	講義分野	タイトル等
8月4日 (木)	9:00	大学到着			
参加者 14名	9:15~9:55	三十九号館 学長講話	豊田寛三	学長	大学での学び・別府大学の教育
	9:55~10:00	休憩			
	10:00~10:50	講義I	高木伸幸	文学部准教授	国文学 小説の創造・資料と方法について
	10:50~10:55	休憩			
	10:55~11:45	講義II	関谷 忠	国際経営学部教授	経営学 まちづくりのマネジメント
	11:45~12:55	昼食・移動(昼食後、33号館に移動)			
	13:00~13:50	講義III	下村 智	文学部教授	考古学 宮崎県の古墳文化 —古墳から見る大分と日向の関係—
	13:50~13:55	休憩			
	13:55~14:45	講義IV	針谷武志	文学部教授	歴史学 幕末薩摩藩の中央政治への進出
	14:45~16:00	附属博物館・大分香りの博物館見学			
	16:00	大学出発			

宮崎県立都城西高校「夏季宿泊セミナー」スケジュール

今後の高大連携の在り方

1 単位認定型連携の課題と展望

大学の授業を高校の単位として認める場合、当然、高校生が大学の授業を受講しなければなりません。しかし、高校と大学では授業時間や時間割の在り方が異なっていますので、高校生は高校の授業が終了した後、あるいは高校の授業が行われていない土曜日に、大学の授業を履修する形態をとらざるを得ません。

そのため、この形の連携は現実的には実施が難しく、本学では教員が協定校の明豊高校に出向する方法をとっています。今後は、遠隔授業やe-learningなど情報技術を用いた連携の在り方を検討する必要性を感じています。

2 協力支援型連携の課題と展望

現在、オープンキャンパスを除けば、協力支援型の連携は高校の企画に大学が協力する形が一般的で、大学が主体的にかかわることはありません。

大学はそれぞれ独自のアドミッション・ポリシー（学生の受入方針）を持っているわけですから、積極的に高校の進路指導と関わり、学生の受け入れを進めて行かなければなりません。今後は、大学と高校が高大連携の在り方を話し合う協議会などの組織を設け、連携企画の充実をはかり、連携の実質化を推し進める必要があります。

本学も現在協力関係にある高等学校との相互協議を促進し、本学を志望する高校生が大学生活に無理なくとけ込めるように努めていきたいと思っています。

国際経営学部の挑戦

国際経営学部は、高度なグローバル化・情報社会化という時代にあって、経営管理能力を持ち産業経済の振興を担う人材の育成を目標に掲げ、2009年4月に開設しました。今、世界では成長が期待できる産業分野としてIT産業と観光産業が注目を集めています。また、金融は政治をも動かす重要な要素ともなっていますし、会計は企業の根幹をなす部分であることが改めて認識され関心を集めています。またグローバルな企業活動は、今や多国籍企業のみならず中堅企業にまで及んでいます。

本学部は、こうした情勢下で活躍できる人材を育成するために様々な教育プログラムの実践に取り組んできました。

挑戦する学生とその支援

国際経営学部には「国際経営コース」「会計・税理士コース」「観光経営コース」の3つのコースがあります。本学部では、基本的なスキルとして簿記技能、情報処理技術、英語を中心とした語学力の獲得を重要視しています。簿記関係の指導は学生個々のスキルや状況に応じた習熟度別のクラスを編成しています。また、情報処理技術関連では必修科目も設けITパスポート等の資格取得を推奨し指導しております。語学関係ではTOEIC対策の講義を設けるとともに、英語・中国語・韓国語で行う専門科目も設置しています。

(1)「会計・税理士コース」に進んだ学生たちは、税理士試験等の大手専門学校と連携した講座を受講して日商簿記検定の3級取得を目指します。合格者は専任教員による2級対策講義を受講します。その後は簿記、会計学、税務会計に関する講義を履修し、税理士試験や公認会計士試験対策に必要な基礎知識を習得します。現在十数名の学生がこの段階に来ております。もちろん、簿記・会計の知識を活かして、一般企業に就職したい学生もこのコースを選択することができます。

(2)「観光経営コース」では、旅行会社への就職に欠かせないスキルとして国内・総合旅行業務取扱管理者の資格取得を掲げ、受験指導體制を整えています。このうち国内旅行業務取扱管理者についてはすでに合格者を出しており、現在、総合旅行業務取扱管理者資格取得に取り組んでいます。



簿記・会計の授業風景

(3)「国際経営コース」に進んだ学生たちは、経営管理、企業研究、国際金融、マーケティング関連の講義を受け、基本的なスキルの上に立った専門性を身につけ将来の展望を切り開いております。また、留学生は日本語に磨きをかけ母国で展開する日系企業を目指す学生も多くいます。

就職支援（インターンシップの促進）

国際経営学部では、学生の就職活動の第一段階として、「インターンシップ」に取り組ませています。教員が地元企業や自治体に働きかけ、インターンシップの受け入れ先を開拓し、学生はそこから自分に適した職場を選択します。学生はインターンシップを通じて、「仕事」の実際と実社会の現状を学びます。例えば、旅行会社でインターンシップを経験した学生たちは、街頭での営業活動から修学旅行の打合せのための学校回りや取引先の企業訪問を経験したり、旅行企画を立てる訓練を積んできています。

地域社会との結びつき

国際経営学部では、地域との連携も深めています。地元企業を対象に「社会が求める人材養成についてのアンケート調査」を実施し、その調査結果を地元企業・団体と共有しています。この結果に基づいて社会で通用する人材の育成に向けて、課外学習や学生主体の研究会活動において、製造業、農業、観光業など地域企業の経営について研究を進めています。また、大分県の観光協会ツーリズムおおいと共同研究、別府市の国際クルーズ船受け入れへの協力、日出町との協定にもとづく観光資源調査など、企業・行政と連携して地域経済の調査・研究を実践し、学生たちも活躍しています。



日出町の観光資源調査の様子

大学院の開設に向けて

我が国の企業は今後一層厳しいグローバル化の波に立ち向かわなければなりません。外国企業との合併や提携といった形でその荒波に立ち向かうとしている企業は、今や大企業にとどまらず中堅企業にまで及んでいます。その進出として中国を中心としたアジア地域への関心が高まっています。そこで、国際経営学部ではアジアにおいてより高いスキルを持って活躍できる人材を育成するために、大学院を開設する準備を進めています。

別府大学短期大学部の就職・進路支援体制

短期大学はその発足の当初から職業教育、実学に重きを置いた教育をおこない、女子高等教育の中核的な役割を担ってきました。ところが、ここ20年来の18歳人口の急激な減少、女子学生の4年制大学志向の高まり、専門学校への進学希望者の増加等の要因が重なった結果、全国的には短期大学はその存在感を徐々に失ってきています。

そのような状況下、別府大学短期大学部は授業内容の充実、教員と学生とが一体となった様々な研究会活動や地域貢献活動の推進に努めたことが評価され、そして何よりも多方面からのご支援により「地域の大学」としての地位を保ち続けています。その教育の成果は就職率に顕著です（昨年4月1日の集計で、短大の全国平均が84.1%であるのに対して本学は96.0%の高さに及んでいます。しかも、卒業後も引き続き就職支援を行うという本学独自の体制により、最終的には希望者全員が就職できています）。

別府大学短期大学部では伝統的に科ごとに就職・進路支援の体制を敷いてきましたが、社会的な情勢の厳しさに対応するために「就職委員会」を中心にキャリア支援センターとの連携を深め、「大学」としての支援体制のシステム化を図っています。主な連携事項は、求人票の「センター」での集約、進路指導に資するための本学独自の「短大統一模試」の実施、就職先開拓活動等です。また、各科とも就職・進路指導に直結する授業を開講しています。

以下に、各学科独自の取り組みを紹介します。

1 食物栄養科

1年次2月に就職ガイダンスを実施し、9月以降になる本格的な活動期への準備を開始します。2年次に「進路指導Ⅰ」（前期）、「進路指導Ⅱ」（後期）を開設し、専門科目、一般教養科目の受験対策、公務員受験対策などを積極的に展開しています。

他科には見られない本科独自の取り組みとして、「調理のできる栄養士」をアピールするための学内外での積極的な活動が挙げられます（2011年度は、和菓子料理講習会・しいたけ料理講習会を開催しました。また5回料理コンクールに応募し毎回入選を果たしました）。九州初の栄養士養成施設として60年近くの伝統を誇る本科ですが、4年制志向の大荒波に埋没しかねませんので、本学食物科の頑張っている姿を示したいとの意図からです。また、2年次8月に病院実習を行います。ここはインターンシップの場であると同時に求人開拓の場でもあるとの認識の下、礼儀作法等事細かな事前指導から事後指導まで一貫した指導を行っています。学生はこの実習を通じて一人前の社会人として大きく脱皮します。

卒業生の多くが県内の保育園や給食委託会社、病院に栄養士として就職します。

2 初等教育科・保育科

別府校（初等教育科）と大分校（保育科）と校舎は異なりますが、実習や就職支援等の学生の将来に関わる事項は両科が共同で運営しています。両科ともに資格・免許取得のため



就職ガイダンスの様子

の実習が多く組まれています。1年次9月の幼稚園での観察実習に始まって2年次10月の小学校（初等教育科小・幼コース）幼稚園（初等教育科保・幼コース、保育科）での教育実習まで5～6回程度の実習を行うことになっています。他に自発的に園や施設を選び保育経験を積み重ねる学生も多くいます。これらの実習は実際に就職につながるケースも多く、進路決定の上からも重要な科目となります。1年次2月に就職ガイダンスを開催し、就職活動の留意点や試験の傾向、進路登録カードの提出等具体的な指導を行い、意識の高揚を図っています。また、公務員を志望する学生に対しては専攻科と共同で受験対策講座を開催しています（本年度、卒業生8名が公立小学校教員採用試験に合格しているのを始めとして、公立の幼稚園や保育園に勤務することが決定している）。

求人数が学生数をオーバーしている現状に甘んじることなく、「歌って、動いて、楽しくふれあう」ことのできる保育者の育成に両科共同歩調で努めているというのが現状です。

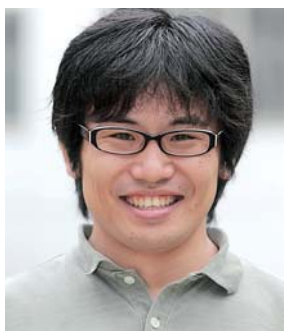
進路状況は約8割の学生が保育士、幼稚園教諭として就職。残りの2割の学生は本学専攻科（2年制の初等教育専攻、1年制の福祉専攻）に進学し、初等教育専攻では小学校・幼稚園教諭1種免許、福祉専攻では介護福祉士資格の取得を目指しています。

3 地域総合科学科

民間の一般企業就職が中心となるため、1年次12月の合同企業説明会から実質的な就職活動が始まります。また、エントリーシート提出による応募が中心であり、そのため多様な支援を入学早々から行っています。

キャリアガイダンス、職業指導、現代社会論、接客マナー等の科目で、企業研究、エントリーシートや小論文・作文の書き方、面接（個別及び集団）、礼儀作法等の指導・演習に、入学時から取り組んでいます。その中で特筆すべきは1年次夏休み中に実施するインターンシップです。担当教員の指導のもとに、受け入れ企業への連絡から1週間に及ぶ就業体験、そして体験発表会に至るまでの一連の流れの中で職業観や勤労意欲を育むことを意図しています。また、原則として毎月1回地域の企業経営者等を講師としてお招きして公開講座を開催し、学生の視野の広がりを期待しています。さらに企業人育成という科としての性格を明確にするため、「秘書検定」「パソコン検定」は全員受検し、2級以上の資格取得を目指しています。

就職状況は金融機関、事務職等、高校には求人がない職種に多数合格しています。



国際経営学部で最年少の角田先生。飾らない明るい性格で誰からも愛されています。会計学や研究テーマのほかに、学生時代のことなどをうかがいました。

サッカーへの関心が会計学に結び付く！

一 佐賀県のご出身ですね

吉野ヶ里遺跡のある佐賀県三田川町がふるさどです。筑紫平野がひろがる自然豊かなところ。子どもの頃は小柄ながら人一倍声が大きくて活発でした。今でもそうですけれど（笑）。

一 会計学はどんな学問ですか

会計は、簡単に言うとお金のお金の管理する活動のこと。その会計を理論的に研究する学問が会計学です。会社でも家庭でもお金を扱うところには会計があり、非常に身近な現象を扱う学問といえます。

一 先生の研究テーマは

企業における人的資源を会計学の組上の載せることです。企業の経済活動はヒト・モノ・カネの3つが基盤です。また、企業経営者は「うちの従業員は会社の大切な財産だ」というような言い方をよくします。しかし、モノ・カネといった資源は会社の資産に計上されますが、ヒトのような資源はその貨幣価値を測定する方法がなく、会社の資産として計上できていません。

一 会社の資産が正当に評価されていない

その可能性があります。とくに金融やサービス業などではヒトに代表される無形資産が企業価値の重要な部分を占めますから、それを貨幣価値で表し、きちんと評価することが重要になります。

一 難しいですね

言葉は慣れないと難しいかもしれませんが、会計そのものは家庭でも日常的に行われている活動です。身近な経済活動を理論的に学ぶと、簿記や経理などもスッキリと理解でき、社会に出て非常に役に立ちます。

一 理論と実務の両輪ですね

国際経営学部では、その両方が学べま

す。身近な具体例を挙げて企業会計の現実を知り、何故そうなるかを考えて理論を学んでいきます。

一 なぜ会計学を志したのですか

子どもの頃に何度も入院して手術を受けた経験があり、その尊敬と憧れから将来は医者になりたいと思っていました。しかし、浪人が決まったときに文系に転じ、広い大地や雪への憧れなどで進学したのが北海道大学で、公認会計士の資格取得を目指そうと経済学部に入りました。

一 いまは研究者になられています

大学2年のときに吉見宏先生から会計学の魅力を教えていただき、先生のゼミに入りました。公認会計士の試験勉強を続けるために進んだ大学院で、先生と同じ研究者になる道を志すことにしました。振り返ってみると、恩師との出会いが大きかったですね。吉見先生との出会いがなければ、今の私はありません。

一 北海道はいかがでしたか

中学・高校は私立男子校の環境に馴染めず暗い青春を送りましたが、大学進学でリセットできました。性格も本来の明るさを取り戻し、何にでもトライするようになりました。いわゆる大学デビューです（笑）。九州出身にも関わらず無謀にもスキー部に入り、本場の冬を満喫しました。サッカーサークルを立ち上げてGMになるなど、大いに大学生活を楽しみました。

一 大学1年の英国経験が大きかったとか

受験英語は苦手でしたが、いざ英国に留学してみると意外にも英語が通じました。読み書き能力も必要ですが、実際には聞く話す能力がより大切だと体感し、生きた英語は面白いことを知りました。結果として世界が身近なものとなり、外

国に対する恐怖感や精神的な壁がなくなりましたね。

一 いまもサッカーが趣味ですね

サガン鳥栖と大分トリニータ、英国ではチェルシーなどを応援しています。英国のプロサッカークラブでは他のクラブに移籍金を支払って有望な選手を引き抜き、選手と複数年契約を結ぶのが一般的です。移籍金は会計上無形資産として計上されます。企業の人的資源が貨幣価値として表される典型例であり、研究上も恰好の対象です。趣味と実益を兼ねて応援しています。

一 学生に期待することは

大学時代は人生で一番自由な時間がある時期。興味あることに積極的にチャレンジしてほしいです。また、別府大学には中国や韓国からの留学生がたくさんいます。日本人学生にとっても外国の言葉や文化が学べる環境にあります。お互いにこの貴重な機会を生かして積極的に交流し、学びあってほしいですね。

角田 幸太郎 先生 プロフィール

- 別府大学国際経営学部助教
- 専門は会計学（無形資産会計）
- 北海道大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。
- 大学1年の英国留学でプレミアリーグの試合を観戦した際にプロサッカー選手と対面。以降、英国とサッカーの虜となり毎年のように渡英。
- 暗かった高校時代から一転して北海道ではスキーやサッカーに明け暮れる。奥さんも北海道でゲット。昨年11月に愛娘が誕生してパパに。



角田先生のゼミ

↑ 文字の段に写真が入りこんで

少しバランスが悪かったので調整しました



臨床栄養や栄養教育が専門の平包先生。
インタビューからは礼儀正しく朗らかな
人柄と、愛情のある栄養士を育てたいと
いう思いがひしひしと伝わってきました。

思いやりのある栄養士を育てたい

一 臨床栄養学はどのような学問ですか

栄養面から病気の予防や治療にアプローチする栄養学の一分野です。

一 栄養で医療の一翼を担う

病気にかかった患者さんの治療を行うためには、医師や看護師だけでなく様々な分野の医療スタッフが必要となります。病院における管理栄養士の役割は、医療スタッフの一員として、医師の治療方針を理解しながら、適切な食事療法を組み立て、日々の食事を通して健康の回復を図ることにあります。

一 先生も病院に勤務されていたね

岡山の川崎医科大学附属病院で管理栄養士として働いていました。約30人の管理栄養士と献立作りや給食管理、患者への栄養指導を行っていました。1,000床の大きな病院ですから、多様な疾患に応じて朝昼晩それぞれに何十種類もの献立が必要となります。カンファレンス（患者の治療方針を検討・確認する会議）にも加わりますから、専門家としての力量が問われますし、非常に勉強になりました。

一 栄養指導は難しそうですね

実際に患者さんを相手にしますし、外来の方も多いので、給食管理とは違う難しさがあります。病気の状態はもちろん、家庭環境や仕事なども勘案しながら、ひとりひとりに合った本当に役立つ指導をしなければなりません。理想的な目標を掲げてもし長続きしなければ意味がありません。小さなことでもコツコツと積み重ねることが大切です。

一 お生まれは香川県ですね

田んぼや畑のなかに溜め池が点在する自然豊かなところですよ。家が農家で新鮮な野菜を子どもの頃から味わっていましたし、料理の手伝いも大好きでした。

一 ピアノがお上手とうかがいました

3才から18才まで習っていましたが、それ以降は弾く機会がなく、いまはどうでしょうか。披露する自信がありません（笑）。

一 管理栄養士を目指した理由は

自立して生きるために資格を持ちなさいと母からずっと言われていました。自分でも人の役に立つ医療系の仕事がしたいと考え、もともと料理や家庭科が好きだったこともあり、管理栄養士になろうと考えました。

一 大学生活はいかがでしたか

3年次にある半年の臨床実習に向けて、1・2年の間はカリキュラムがびっしりでした。でも、自分が希望した世界だったので、勉強は楽しかったですね。実習で医療現場を体験し、より深い専門知識が必要と考えて大学院に進学しました。

一 研究テーマは

大学院では食事制限と健康の関係を研究していました。現在は、健康者がお酒を飲む時にどのような食事の取り方がベターなのかを研究しています。「お酒と一緒に食べて血糖値を上げにくい食品」などが提案できればと考えています。

一 栄養士と管理栄養士の違いは

同じ栄養の専門家なのですが、高度な専門知識が必要とされる特定の業務は管理栄養士だけに認められています。管理栄養士は病院や保健所、栄養士は保育所や給食事業所が主な職場となっています。

一 教育で心掛けていることは

人間として成長してほしいということですよ。就職後は、患者や同僚とコミュニケーションをとる力、思いやりや感謝の心が大切になります。学生には栄養価計算だけの栄養士にはならないようにと言っています。

一 食物栄養科のよさは

先生が本気で学生に向き合っていると。愛情をもって接し、指導すべきことは誤魔化さずにきちんと指導します。体当たり教育が学科の伝統だと思っています。小さい学科の良さで、みな仲がよく、ほのぼのとしているところも魅力です。学生も2年間で驚くほど成長してくれています。

一 卒業生との関係も深いとか

卒業生による栄養学の勉強会が月に1回、管理栄養士を目指す卒業生の勉強会が週に1回あります。みな仕事帰りに短大に集まり、夜9時頃まで勉強します。卒業生との絆が強いのも学科の魅力です。

一 学生へのメッセージをお願いします

知識や技術はもちろんのこと、人の気持ちが分かる、思いやりのある栄養士に育ってほしいと願っています。信頼される栄養士を目指して一緒に頑張りましょう。

平包 留美先生 プロフィール

- 別府大学短期大学部食物栄養科准教授
- 専門は臨床栄養、栄養教育
- 川崎医療福祉大学医療技術学部栄養学科卒、同大学大学院医療技術学研究科修士課程修了、同博士課程退学。
- 川崎医科大学附属病院栄養部に管理栄養士として勤務の後、本学に着任。
- ピアノのほかマーチングバンドでベルリラ（鉄琴）や小太鼓も演奏。好きな科目は音楽、生物、化学、家庭科。体育やスポーツは苦手。



韓国の漢陽女子大学と交流協定締結

2012年1月13日に日高紘一郎理事長が韓国の漢陽女子大学を訪問し、交流に関する協定書に調印しました。

漢陽女子大学とは、2003年に本学の短大が協定を結び、短大の学生が研修旅行で訪れたり、インターシップの短期留学生を受け入れたりと交流を進めて来ましたが、今回、大学への編入学指定校推薦入学を盛り込み、更に内容を深めた「教職員及び学生の交流に関する覚書」を交わし、大学及び短大を包括して学校法人として、「交流に関する協定書」を締結しました。

漢陽女子大学はソウル市内の小高い丘の上に位置し、学生数約7千名で、校訓は「愛の実践」です。1974年の設立当時は3学科でしたが、現在では日本語通訳科、幼児教育学科、コンピューター情報科や歯科衛生学科など27学科を擁しています。同大学は一人の教員が一つの企業を担当する「一社一教員協定制」を実施するなど、就職先の開拓にも力を入れています。

2009年には、漢陽女子大学の教授が本学で繊維作品の展覧会を開催し、また、総長の魯徳柱氏は2010年に別府大学名誉博士の称号を授与されており、今後の活発な交流が期待されます。



日高理事長(右)と魯総長(左)

タイのラチャモンコン・ラタナコシン科学技術大学を視察

2011年9月24日から28日まで、本学の小松伸二郎常任理事と友永植文学部長が、タイのラチャモンコン・ラタナコシン科学技術大学(RUTR)を訪問しました。当大学は、230年前に設立され、専門学校を経て、2000年に大学に転換された伝統のある大学です。現在、タイ国内に4キャンパスを擁し、約10,000人の学生が学んでいます。

RUTRはタイで最初に日本語教育を始めた大学で、その歴史は70年に及んでいます。日本語学科はポピットピムックチャカワットキャンパスの教養部に属しており、常勤教員6人(日本人教師1名)、非常勤3人の教員が日本語教育に携わっています。毎年、RUTRはタイ全土の日本語学習者を対象に「日本語試験」を実施しており、これには中学生から大学生まで約1,400人が参加するとのこと。

一行は本部のサラヤーキャンパスを訪れ、イサリー学長以下、RUTRの主要な関係者と両学の交流について意見交換を行いました。イサリー学長は、「タイでは日系企業が多く進出しており、日本に対する期待が大きい。RUTRにおいても日本語教育に力を入れるとともに、日本への留学を積極的に進めたい」と話していました。本学としても、今後、RUTRからの留学生受入の体制を整えて行きたいと思います。



イサリー学長(中央)と小松常任理事(左隣)

本学学生の韓国・大邱科学大学「グローバルTSUキャンプ」への参加

2012年1月10日から18日まで、本学の学生10名が韓国の大邱科学大学が主催する「グローバルTSUキャンプ」に参加しました。このキャンプは、同大学が日本語圏・英語圏・中国語圏の大学生を招待して実施する企画です。

本学は同大学と2005年に交流協定を締結し、留学生やインターンシップの受け入れ、あるいは遠隔地授業の実施など幅広い交流を行っています。当キャンプへの参加もその一環です。これまで主として短期大学の学生が参加してきましたが、今回は短大生の地域総合科学科の学生3名と4大の国際言語・文化学科、史学・文化財学科、人間関係学科の学生7名が参加しました。リーダー後藤香里さん(国文学科4年)は今回のキャンプについて「この機会は私の人生に大きな影響を与えようと思う」と感想を述べています。



キャンプに参加した本学学生とTSUの教員の皆さん



韓国・仁済大学の学生と本学学生が懇談

2011年12月22日、韓国の仁済大学から李進厚教授の引率で5名の学生が本学を訪れ、本学学生と懇談ならびに意見交換を行いました。仁済大学と本学とは、1999年に交流協定を締結し、その後、学生や教員の相互交流を行っています。今回は、仁済大学の学生から、学生主導の研究プログラム「グローバル・チャレンジャー」の一環として、「韓流と嫌韓流の現状」について日本人学生の意見を求めたいという希望があり、実現しました。

当日は、本学から5名の学生が出席しました。出席した皆さんは、2012年1月に韓国・大邱科学大学のキャンプ(TSUグローバルキャンプ)に参加する予定の諸君です。日本でも「韓流」が話題になっているだけに、両国の文化の違いなどを踏まえて、熱心な意見交換が行われました。この会には、本学から鈴木美佳、羽田野友季絵、小野唯衣、筒井佳澄、西村早百合の皆さんが出席しました。今回の学生主体の意見交換会は、今後の国際交流の在り方を考える上で大変参考になりました。



▲仁済大学の学生



本学学生(右側)との意見交換▼

いきいき別大生

卓球部 がんばっています

卓球部は、別府大学スポーツ振興会全19サークルのうちのひとつです。

卓球部は、自他共に認める楽しいサークルです。部員みんなが明るく元気に毎日じめに練習に取り組んでいます。日々の練習の成果で、技術の向上やチームのまとまりが見られるようになりました。

また、留学生との交流も盛んです。今までに韓国・中国・モンゴルの留学生の方と一緒に活動してきました。別府大学だからこそ、いろんな国の方と出会うことができ、一緒にスポーツをすることも可能なんだと思います。留学生の参加により、技術の向上だけでなく語学の修得もできるかもしれませんよ。

部の活動として、年2回開催される大分県学生卓球選手権に参加しています。この大会で結果が残せるように励んでいます。

今年は九州インカレが大分で開催されることもあり、部員一同練習にも熱が入っています。新入生を新たに加え、さらに部を盛り上げていきたいと思っているので、卓球部ならびにスポーツ振興会への加入を期待しています。

(文学部 人間関係学科 4年 住原 理瑛)



練習に励む黒木隆世さん(左)と河津武佳君(右)

イラスト研究部 楽しんでいます

文化会とは、18団体の文化系サークルの集まりです。それぞれのサークルが文化的目標や目的を持ち、日々楽しく活動しています。また、文化会全体で取り組む活動もあり、さつき祭や石垣祭といった学園祭や、リーダーシップトレーニング(研修旅行)等があります。

私は、その文化会サークルのひとつであるイラスト研究部に所属しています。活動としては、学園祭やコンパルホールでの展示のほか、年に4回ほど「OUTSIDE」という部内誌も発行しています。イラストを描くこと、見るのが好きな人達が集まって、楽しく活動しています。

サークルに入って、学年・学部・学科を越えて交流できるということはとても楽しく、有意義なことだと思います。大学を卒業して社会に出てからも、サークルでの経験や培った人間関係で得たものは必ず役に立ちます。これから、より一層充実したサークル活動ができるよう、新入生の文化会ならびにイラスト研究部への加入を期待しています。

(食物栄養科学部 食物栄養学科 3年 田中 芙美)



イラスト部 部会の様子

バレーボール部が「大分県ふうせんバレーボール競技会」から感謝状を授与される

2011年10月3日、本学のスポーツ振興会バレーボール部が「大分県ふうせんバレーボール協議会」から感謝状を授与されました。同部は長年にわたり「ふうせんバレーボール」の審判に携わっており、今回、そのボランティア活動が高く評価されました。

「ふうせんバレーボール」競技は一般にはなじみが薄いのですが、近年、身体障がい者のスポーツ競技として注目されており、2010年の大分国体で初めてオープン競技として登録されました。競技は身障者と健常者が一緒に6名のチームを組み、直径40センチのふうせんボールを打ち合うもので、基本的なルールはバレーボールに準じています。身障者と健常者がともに競技できるスポーツとしてこれからの普及が期待されています。

同部は2004年から本競技の審判に取り組んでおり、毎年、宇佐市で開催される「大分大会」に向け研鑽を積んでいます。今後もこの取組を継続するとともに、「ふうせんバレーボール」の社会への普及に努めてもらいたいと思います。



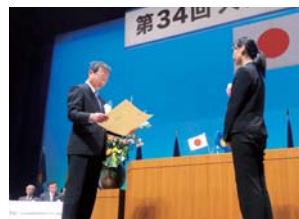
金田智道会長から感謝状を授与される東佳輔キャプテン

「別府大学BBS会」が法務大臣・厚生労働省局長から感謝状を授与される

昨年11月22日(火)、第34回大分県保護司大会におきまして、本学サークルの別府BBS会が法務大臣ならびに厚生労働省医薬食品局長から感謝状をいただきました。

別府大学BBS会は、文学部人間関係学科の学生で構成するボランティアサークルです。そもそもBBS会は法務省が支援するボランティア団体で、様々な問題を抱える少年と兄や姉のような身近な存在として接しながら少年の成長を支援するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指して活動しています。この他に、別府大学BBS会では、児童福祉施設における家庭教師活動や自治公民館を利用した寺子屋活動なども実施しています。

「先輩たちから続く長年の活動が認められて嬉しいです」と会長の眞部愛美さん。12月に行われた別府BBS会の総会では幹部交代が行われ、学科創設以来10年以上続く活動は次の代に引き継がれました。



感謝状を授与される眞部愛美さん

別府市上人公民館での「寺子屋」活動の様子



がんばってます留学生

「女子留学生日本語弁論大会」で受賞

「女子留学生日本語弁論大会」が、2011年10月30日に別府市国際交流会館で行われました。この大会は、日本で学ぶ留学生を支援する国連NGO世界女性平和連合が主催したものです。本大会は15回目となる全国大会の予選、大分県大会として開催されました。

本学からは、大学院文学研究科日本語・日本文学専攻2年の張蕾さん（中国）、文学部国際言語・文化学科3年の白孝珍さん（韓国）、同学科3年の陳玉さん（中国）、同学科1年の王翔坤さん（中国）、短期留学生の李仁花さん（韓国）と郭恩熙さん（韓国）の6人が出場しました。

総勢10名の中から、「世界平和のためにできること～「人」という漢字は何だろう～」という題で発表した張蕾さんが、優秀賞（第2位）を受賞。他の5名も練習の成果を出して流暢な日本語を披露し、会場からは熱い拍手が送られていました。



受賞後の記念撮影

「きちよくれ大分輪をつなげプロジェクトⅡ」で受賞

11月19日、「きちよくれ大分輪をつなげプロジェクトⅡ～地域に生きる留学生フォーラム～」が大分市コンパルホールで開催され、本学から張 君侠（地域総合科学科2年）君、李 昇宴（文学研究科・文化財学専攻）さんが参加しました。本年度から2部構成で実施され、第1部では留学生によるスピーチコンテストに張君が出演、第2部では李さんが参加し、留学生による地域提言シンポジウムで、「外国人を引きつける大分」というテーマのもとシンポジウムを行いました。1部のスピーチでは、立派に発表を行いました。惜しくも上位入賞にならず、優良賞になりました。2部のシンポジウムでは、留学生の視点から、別府市でよりよく学べる環境にしていってはどうかという発表を行いました。本学の客員教員である辻野先生がコーディネーターを務め、会場にいた参加者も含め様々な意見などが飛び交いとても有意義な時間となりました。



張 君侠君

李 昇宴さん(右)



受賞後の記念撮影

留学生の初釜・餅つき体験

2012年1月4日、大分市の福德学院高等学校において、留学生を対象とする初釜とお餅つきが行われ、本学の留学生も23名が参加しました。この企画は、福德学院高等学校が初釜を大分県で暮らす留学生に体験してもらおうと12年前に始め、途中より大分南ライオンズクラブが加わり、同クラブによるお餅つきも実施されています。本年度は約40名の留学生が日本文化の一端に触れました。



初めての餅つきです

午後1時、福德学院高等学校の茶室において、同校の茶道部を指導している茶の師範より茶道の心得が説明された後、お茶が立てられました。10名ほどの留学生が師範の指導でお茶を立て、参加者全員に和菓子とお茶がふるまわれました。

初釜の後、校庭でお餅つきを体験した。慣れない手つきで餅をつき、あんこをくるみ、つきたての餅を食した。雪がちらつく大変寒い日であったが、本学の留学生にとって、日本の伝統的な文化に触れる貴重な機会になりました。



茶道の説明を聞く留学生たち

OBSラジオトピッカーの番組に出演

11月30日、本学の学生である、白 孝珍さん（韓国）、曹 承喜さん（韓国）、呂 元静さん（中国）たちがラジオトピッカーに出演しました。3人は当然ラジオ番組に出演するのは初めてのことでとても緊張していました。今回のテーマは「鍋」でそれぞれ母国での良く食べるものについて、また日本に来てから好きになったものなどの話をしました。出演後は、留学生活の中でとても良い経験になり、とても有意義になったようです。



トピッカーのドライバーにはさまれて、左から白さん、呂さん、曹さん



学園を支えていただいた方々

長年にわたり大学・短大を支え、2011年度をもって本学を退任される先生方の足跡を紹介させていただきます。皆さん、大変お世話になりました。(文中の①は在籍年数、②は専門分野、授業科目、本学でやりたかったこと等、③は退任任に当たっての言葉です)

安房田 司郎先生(食物栄養科学部 食物栄養科学科)

①9年 ②基礎栄養学、特殊環境栄養学、栄養生化学、など。管理栄養士の国家試験合格者を80%に引き上げることを目指す ③学科の開設時から大変お世話になりました。少子化により、厳しい環境ではありますが、地域の人々の期待に応じて研究・教育に益々の発展をお願いいたします。学生の皆様、楽しい時間をありがとうございました。管理栄養士として地域住民の健康管理に貢献できるよう頑張ってください。期待しています。



古川 謙介先生(食物栄養科学部 発酵食品学科)

①5年間 ②応用微生物学(環境浄化微生物の新機能の探索、開発、利用)、「バイオテクノロジー論」、「環境微生物学」等。三和酒類(株)と4年間共同研究「地域にと連携したバイオテクノロジー研究」を実施するなど、地域と連携した研究が多数。③本学の学生はノビシロが高い学生たちだと思います。別府大学が東九州のバイオ拠点となることをお祈りします。



池口 守先生(文学部 史学・文化財学科)

①4年半 ②西洋古代史(古代ローマ経済史) ③別府大では西洋史の授業に加えて英語科目も担当しましたが、英文法とイギリス小説とポップ・ミュージックを組み合わせた授業を楽しんでもらえたのではないかと思います。今後も英語や専門の勉強を楽しみながら続けてください。別府大にときどき寄らせていただき、学生の皆さんが成長していく姿を見守りたいと思います。



三城 大介先生(文学部 人間関係学科)

①8年間 ②精神保健福祉分野、特に精神障害者の就労支援。地域に求められるソーシャルワーカーを育成しながら、大分県における精神障がい者の就労支援プログラム(IPS)の立ち上げ、完成に関わる。③本学学生は可能性を秘めた野武士の気骨があると思います。学生と向き合うことで自身が成長できたように感じた8年間でした。



井上 富江先生(食物栄養科学部 食物栄養学科)

①47年 ②フランス中世文学(特に南仏吟遊詩人たち、アーサー王文学)、フランス語教育法、など。フランスのモンペリエ第三大学、調理専門学校との交流に尽力 ③別府大学の学生の真面目な熱心さは、留学先で修士号を獲得するなど、留学先のフランスからも高く評価されています。この交流は共に得難いものなので、今後もずっと続けていっていただきたいです。



石井 保廣先生(別府大学付属図書館館長)

①7年間 ②図書館学。館長として、図書館の情報化や授業改善に尽力。資料組織演習でわが国初の機関リポジトリ登録演習を実施したほか、学生の選書ツアーや図書館見学ツアーのほかシラバス掲載の参考図書の収集、電子ジャーナルの充実など、多くの新規企画に関わってきた。③素直で真面目な学生であることが本学の特徴で、授業や演習が和気あいあいと行うことができ、この7年間自身の充実感にもつながっています。浅学な私が先生方・職員の皆様方のご指導、ご支援を仰ぎ教育と図書館運営に携わってこれたことは、さらに歳を重ねても生涯の喜びと想い出として生きていく糧になるものと深く感謝申し上げます。



上田 見二先生(文学部 国際言語・文化学科)

①38年間 ②専門は英米文学だが、特に19世紀米国文学。専門分野だけでなく、教養英語を通じてあらゆる学科の学生たちに教授。ハワイ大学をはじめ、本学の特徴であった海外留学制度を強力に推進してきた。1986年には、ウィンチェスター大学の客員教授も。③感無量、とても一言では言えない。総じて幸せでありたい38年でした。感謝申し上げます。これからも今までとおり、上田流のスピリット"WW" (イキイキ、ワクワク、ワッハッハ!)で生きていきます。



阿部 孝士先生(短期大学部・保育科)

①10年間 ②教育制度論。学生に対しては、憲法などの授業を通じ、戦後の時代背景を感じてもらいながら民主主義について考えたいと考えていた。また、学生募集については、計数化をすすめて、活動の戦略・戦術の確立をめざした。③10年間の勤務を終えるのかと思うと、別府大学、別府大学短期大学部にこの上ない愛着を感じていることが、しみじみと懐に染みてきます。授業中にもう少し知的緊張感があつたらと少しさびしく感じています。



丑木 幸男先生(文学部 史学・文化財学科)

①4年 ②アーカイブズ学・日本近代史。本学アーカイブズセンターに所蔵されている古文書のアーカイブ化 ③本学の古文書の多くは未整理なまま死蔵されているので、国際的に提案されているアーカイブズ整理理論にもとづいた文書目録を学生とともに作ってきました。貴重なアーカイブズ資源を有効に活用できるようになることを期待しています。学生諸君においては、青春を無駄遣いすることなく、自分のことばで話すことができるおとなになってほしいと思います。



安部 義和先生(短期大学部・初等教育科)

①6年間 ②地理学、教職科目 ③いつも考えることの楽しさについて学生に話してきました。40年間の教師生活を背景に話をしたためか、学生の皆さんが楽しく受け入れてくれたことが本当にうれしい。考えるための素材はどこにでもころがっているのに、時代のせい、面倒くさがりの人が増えてきました。日本の国が大変なときですが、考えることを忘れずに、自信と誇りをもって、ともにがんばりましょう。



白石 邦俊先生(文学部 国際言語・文化学科)

①6年間 ②マンガ・アニメーションの講義、実習。③別府大学ではマンガ・アニメーション作家を育てようと思い、とりわけ、ストーリー構成力やキャラクターの造詣の大切さを伝えようとしてきました。十分、作家の原石が育っていると思います。ただ、欲が無さすぎたと感じています。目的に向かってもっともっと貪欲であってほしいと思います。この6年間色々な意味で勉強させていただきました。感謝しております。



小野 善寛先生(短期大学部・初等教育科)

①4年間(明星小学校2年間を含む) ②国語科指導法、生活科・社会科等の講義 ③学生に何を教えるのか、最初は迷いましたが、年次が進むにつれて学生とじっくりいくようになり、また教育課程の研究では現場では味わえない論理を学ぶことができました。とても純真で素直な学生が多かったと感じています。大学で学んだことを活かし、これからは地域の発展に寄与したいと考えています。ありがとうございました。



瀬戸口 昌也先生(別府大学 教職課程)

①16年間 ②教育哲学(ディルタイの教育学)が専門。教育学、教育方法論、教育制度論、学校教育論、教育メディア論など、教職関連科目を中心に授業 ③教職を志望する学生を支援するだけではなく、教育学の醍醐味を伝えたいかったです。学生とは、時に対決(?)し、時に振り回されたりもしましたが、とても楽しかったです。大事な思い出です。大学の教員として、研究者として多くのことを学んだ16年間でした。どうもありがとうございました。



児玉 元治先生(短期大学部・初等教育科)

①4年間 ②算数科指導法。大分県美術協会書道部会常任委員・大分支部長をつとめるなど、書道にも造詣が深い ③将来必要になる教師としての資質ということを考えながら授業をしていました。前向きな学生が多く、現場で十分活躍できる資質が身につくつとあると思っています。今後、早く一人前の教師・社会人となってがんばってほしいと願っています。大学という場を経験して、見方・考え方が広がり、人間として成長したような気がします。ありがとうございました。感謝!!



田島 松二先生(文学部 国際言語・文化学科)

①5年間 ②英語学(英語史)・社会言語学 ③素朴で真面目な学生や友好的な教職員に恵まれたこと、風光明媚、湯煙のぼる鉄輪で暮らしたこと、鶴見山系を縦走できたこと、等々、いつまでも心に残る思い出ばかりです。44年にわたる教員生活の最後を別府大で過ごせたことに感謝しています。



西村 慶治先生(短期大学部・地域総合科学科)

①1年間 ②キャリアデザイン。ライフワークは、「『夢』のある元氣な未来創りのおてつだい」。「人」に関わる各種テーマで、行政機関や教育機関を始め、民間企業や各種団体でも多くの講師を経験。③一人ひとりの学生さんの中に、未来への可能性を見つかることができました。これからも自分の持ち味を大切にして、成長を続けて欲しいと思います。お世話になりました教職員の方々や授業と一緒に創ってくれた学生のみなさんに改めて感謝申し上げます。



後輩への言葉

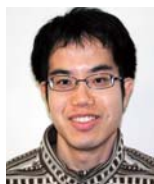


三浦 世理奈 さん（日本語・日本文学専攻 博士前期課程）

私は文学にとっても興味をもっています。文学は自分のことや社会のことなど顧みるきっかけを与えてくれるからです。なので、大学・大学院とあわせて6年間、文学について学んできました。この別府大学は研究しやすい環境が整い、先生方も丁寧に指導して下さいだったので、楽しく研究することができました。別府大学で学ぶことができて本当によかつ

たと思っています。

後輩の皆さんも、環境を積極的に活用して、興味を持っていることとことん取り組んでみるといいと思います。楽しめるものを見つけ、充実した学生生活を送ることができるよう願っています。



伊藤 剛史 さん（食物栄養科専攻 修士課程修了）

はじめまして、今年の3月まで在籍していた大学院生の伊藤剛史です。私自身、このような書き始めでいいのかなと思いますが、何事も自己紹介からという固定観念を抱いているのか書いてしまいました。さて、肝心の内容。在学生へのメッセージでした。しかし、どのようなことを伝えたいのか悩みました。そこで、私が大学生生活を送った中で思った事を書きます。大学生生活はあっという間でした。入学したかと

思ったら卒業してしまいましたから。まあ、何が言いたいのかという『何事もしっかり計画し、実行していかないと終わらない』ということですね。ですが、あわてることはありません。毎日、努力して進めていけば達成できますよ。そして、前の日より少しスゴイ自分となって、思い描いたスゴイ自分になってください。最後に卒業生として在学生がよい日々を過ごせることを願って締めくくらせていただきます。読んでいただきありがとうございました。

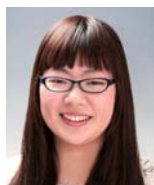


後藤 春生 さん（文学部 人間関係学科 社会福祉コース 4年）

大学では、様々なことに挑戦し、自らを高めることができます。私は、社会福祉士と精神保健福祉士という二つの国家資格に挑戦しました。当初「自分にできるだろうか」という不安はありましたが、挑戦無くして得られるものは無いと考え、受験を決意しました。そして、何度も挫けそうになりながらも、先生や共に学ぶ仲間など、周囲の協力を受けて最後

まで学習に取り組みしました。

限られた時間を無難に過ごすことは簡単です。しかし、その安易を振り切って挑戦すれば、自らの可能性を広げ、人生を変えることができます。大学生活において「自分にできるだろうか」と迷った際には、「自分にはそれに取り組むチャンスが与えられた」と考え、自らの可能性を信じて挑戦していくことを、強くおすすめします。



園田 香織 さん（地域総合科学科 2年）

私にとって短大は、多くの出会いがあり、自分自身を見つめなおす場だったように思います。資格取得のために選択した授業では違う科との繋がりができ、学園祭の実行委員では科や学年を超えた繋がりをつくることができました。授業や実行委員を通してできた繋がりは、学校生活だけでなく就職

活動でも支えになりました。自分を客観的に見たアドバイスをもらったり、励ましてもらったりと本当に力をもらっていました。友人だけでなく、先生方も忙しい中時間をとってゆっくり話を聞いてくれたり、自分ひとりでは気づけなかったことに気づかせてくれました。在学生のみなさんにも、これから入学してくるみなさんにも、人との繋がりを大切に、有意義な学生生活を送ってもらえたらと思います。



段 暁鵬 さん（別科 日本語課程）

私が別科に入学して早いものでもう2年が経とうとしています。別府に来た頃の私は日本語検定2級のレベルに達していなかったのに、話すことはもちろん、正確に聞き取ることすらできませんでした。また、全く知らない所で、両親と離れて一人で生きていかなければならない厳しさに涙を流すこともありましたが、でも、日本に留学したからには1日でも早く1級に合格しなければ…と思って、がんばりました。

別科では、学生のレベルによって少人数のクラスで教育が行

われています。最初は緊張と不安でいっぱいだったのですが、和やかな先輩たちの雰囲気と親切な先生たちの雰囲気と親切な先生方のおかげですぐに慣れました。分からないことがあっても先輩や先生たちがすぐに教えてくれます。また、先生方の授業もおもしろくて覚えやすいし、毎週火曜に復習テストがあるので大変役に立ちました。私は別科に入学して半年で2級に合格し、その後半年で1級にも合格することができました。別科での勉強は本当に楽しかったし、日本語を勉強するにはいいところだと思います。



水野 晴子 さん（附属看護専門学校〈全日制〉 2年）

私は人に役立つ仕事を得たいと願い、これを人生の目標にして看護学校に入学しました。実習は自己管理、レポート、学習と緊張の連続で厳しい日々でした。しかし病と闘いながら私達学生に温かい励ましをして下さる人、患者さんに献身的な愛情を注ぐご家族の姿、病気を理解し向き合う方々に感動を覚えま

した。看護はどのような状況の時も一方的なものではなく、患者様を尊重し理解し気持ちに寄り添い始めて成り立つものだと学びました。

実習中は新しい体験や学びの連続でしたが、この目標に向かう思いは見失いませんでした。今後も努力を惜しまず人としても成長したいと願っています。

豊田寛三大学長が大分合同新聞文化賞を受賞

学園

昨年、11月3日の文化の日に、本学の学長豊田寛三先生が大分合同新聞文化賞を学術部門で受賞されました。先生は、広島大学の出身で、1974年から大分大学で教鞭を取られ、大学の学務面でも教育学部(現教育福祉科学部)の学部長を皮切りに、学長特別補佐、副学長、理事など大学の要職を歴任され、その力量を期待され、2010年4月からは別府大学の学長に就任されました。この間、大分県の各種委員会の委員・会長、市町村の文化財関係の委員会の委員・会長を務められ、大分のほとんどの市町村誌の編集事業にかかわり、大分県地方史研究会の活動の中心にありました。この間の研究で小藩分立の近世大分の歴史の生き字引というべき地位を確立しました。このような学術業績が評価され受賞となりました。

本年1月21日、大分全日空ホテル・オアシスタワーを会場に受賞祝賀会が開催され、先生の受賞を祝福する150人近くが集まりました。顔ぶれば、大学関係に止まらず、市町村の文化財担当者、教育関係など、先生の交遊の広さ、人柄を感じさせる会となりました。

寛三先生 大分合同新聞文化賞受賞祝賀会



前列中央が豊田学長ご夫妻

別府大学食物栄養科学部開設10周年記念式典・講演会およびシンポジウム

大学

別府大学食物栄養科学部は、2002年に開設し、本年4月に開設10周年を迎えます。本学部は、大分県下では唯一の管理栄養士養成を行う食物栄養学科と、全国でも数少ない醸造発酵学を専門とする発酵食品学科の2学科からなります。

発酵食品学科は、2011年度から社会の要請に応えるべく複雑化するフードシステムに対応できる人材を育てるために、自由選択制の「発酵食品コース」と「食品流通コース」を設けました。選択は2年時になってからですが、知識の幅を広げることでこれまで以上に将来の道が拓かれると期待しているところです。

両学科は、今日まで、保健、医療、福祉領域および食品関連の産業界で、人々の健康や幸福な生活に貢献したいと望む意欲あふれる人材の育成をめざし教育・研究に邁進してまいりました。これもひとえに多くの皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。

この度、開設10周年を記念し、4月22日に、本学別府キャンパスにおいて「食物栄養科学部開設10周年記念式典・講演会」を開催いたします。10周年記念基調講演では、東京農業大学名誉教授・別府大学客員教授で発酵食品の研究者として、また、作家としても著名な小泉武夫先生をお招きしてご講演を頂きます。

さらに2012年11月18日には、「10周年記念シンポジウム」を開催いたします。県外・県内の栄養・医療・食品の分野でご活躍されている先生を中心にお招きし、シンポジウムを開催する予定です。詳細につきましては追ってお知らせいたします。

10周年記念講演会でお話していただく
小泉武夫先生



竹田市に別府大学文化財研究所 竹田センターがオープン

大学

2011年12月2日、竹田市に「別府大学文化財研究所竹田センター」および「竹田市・大学連携センター」がオープンしました。これまで、宇佐市の別府大学宇佐教育センター、日田市の別府大学日田歴史文化研究センターに次いで、豊肥地区に3つめの研究拠点施設が誕生しました。施設は、旧双城中学校跡地を利用したもので、敷地は約3万㎡、延べ約1700㎡の鉄筋コンクリート2階の旧校舎、それに約80㎡の宿泊可能な研修棟を新たに設けました。竹田市文化財管理センターと併用で、講義室、演習室、宿泊施設などを備え、大学および大学院の各学科・各専攻のゼミや演習、実習、調査研究などに利用します。特に、考古学や民俗学、環境歴史学、文学や言語学、食物栄養、観光や農村経済、福祉など地域と連携した幅広い活動を推進していきます。また、地域住民の方々を対象にした公開講座の拠点などとしても活用する方針です。



開所式のテープカットを行う
本学豊田寛三学長(右)と
首藤勝次竹田市長(左)

竹田センターのたたずまい



大分ユーモアまんが大賞が決定！

大学

昨年別府大学創立60周年記念事業として始められた企画を継続し、第2回が開催されました。ユーモアに秀でた大分の地域特性を活かそうという趣旨ですが、全国各地から前回の約50%増の作品が寄せられました。応募者総数160名、応募作品数235作品。特にストーリー・4コマ部門はいろいろなタイプの作品が揃い、「夕方なしか」の吉田寛さんや大分プロレスのジ・アッチーさんらの審査員の方々も選考に大いに悩まれたようです。その結果、大賞はこわだ みつさん(男性32歳)=愛媛県=の四コママンガ「アトリエこわだ」、1コマまんが部門は森本 修さん(64歳)=京都府=の「寒い日は」に決定。その他優秀作品とあわせ、芸術文化学科2011年度卒業制作展と同時に大分県立芸術会館で展示されました。受賞作品は大学のホームページでも公開中です。是非《大分発信の良質なユーモア》をお楽しみください。



大分ユーモアまんが対象大賞の受賞作品を展示

「夢米棚田チーム」の活動を紹介

大学

2010年1月、学校法人別府大学と大分県による「大分農業文化公園棚田プロジェクト」が始まり、実行組織として、食物栄養科学部・国際経営学部・文学部の学生によるサークル「別府大学夢米（ゆめ）棚田チーム」が結成されました。サークルの学生たちは、棚田作りから棚田米の収穫・販売までを体験し、その実習体験を活かして、農業や食料・食育あるいは環境等の問題に取り組んでいます。

2年目の今年は「ヒノヒカリ」のほかに「赤米」を植え、10月16日、71名の学生、教職員が参加して稲刈りを行いました。10月22、23日に別府市で開かれた大分県農林水産祭では活動内容やこれまでの成果について展示し紹介しました。収穫した新米は、11月5、6日の学園祭（石垣祭）で販売するとともに、「ライスバーガー」や「角煮丼」として調理したのも販売しました。

本年から「夢米（ゆめ）棚田チーム」は『棚田新聞』を発行し、年間の活動を紹介します。同新聞は本学のホームページ（食物栄養学科のページ）でご覧いただけます。



10月16日の稲刈りの様子

短大食物栄養科が「第1回 食物栄養科主催 健康展」を開催

短大

11月19日、短期大学部食物栄養科が「第一回健康展－減塩について考えてみよう－」を、JR大分駅構内に開催しました。学生による「減塩」についてのポスター展示や食品の塩分量展示、教員によるミニ講義などとともに、食育ステージでの「一汁三菜」の歌、食物栄養科監修の減塩弁当を披露しました。また大分県栄養士会及び大分県糖尿病療養指導士会の後援もあり、数多くの方々が興味を持って参加してくださいました。さらに11月23日には、トキハ本店において、トウモロコシご飯、秋刀魚のハーブ焼き、季節の野菜のマリネや胡麻和えなど、塩分を1.5gに抑えた食物栄養科監修の減塩弁当を販売しました。市民の方々の減塩に対する関心も高くお弁当は3時間ほどで完売しました。なお、この件については、朝日放送のJニュースでも取り上げられました。本科では、これから大分県の皆様の健康増進に向けて減塩運動の啓発活動を進めていくとのことです。



JR大分駅構内での減塩弁当販売の様子

短大初等教育科・保育科が恒例の冬のイベントを実施

短大

2011年12月22日、2年に一度の「第29回ミュージックフェスティバル」が開催され、初等教育科、保育科の全13クラスがグランプリの栄冠目指して、美声を競い合いました。栄冠を手にしたクラスは、それまでコツコツと積み上げてきた練習の成果が報われたとして、全員で喜び合っていました。他にも和太鼓やマリンバ、ハンドベル演奏、ボディーパーカッションと音楽に酔いしれたひとときでした。

年が明けて2012年1月7日、恒例の凧あげ大会が開催され、好天と順風に恵まれ、平面の大凧や立体凧など88個の手作り凧が、夢を乗せて朝日に向かって高く舞い上がりました。初等教育科、保育科共に自慢のデザイン力を競い、個性豊かでステキな凧たちが勢ぞろいしました。

このような行事は、仲間との絆を確認すること、達成感や充実感を味わうこと、豊かな感性を磨いていくことなどができ、将来、保育者として教育者として貴重な経験となります。



凧あげ大会の様子

ミュージックフェスティバルの様子

地域総合科学科より3名が難関の国家資格を取得

短大

昨年9月11日に実施された「国内旅行業務取扱管理者試験」で、短期大学部地域総合科学科（大分キャンパス）2年生の大野安里沙さん、高橋希さん、張明明さんの3名が合格しました（合格率60%）。この試験は合格率が30%前後という旅行業界では難しい国家試験です。上記学生は別府校、大分校で実施された特別対策講座に夏休み返上で参加し、最後まであきらめることなく見事に目標を達成しました。

中国人留学生の張明明さんからは「最初、勉強し始めたとき日本についてあまり知らなかったが、先生の指導のもと勉強すればするほど日本の文化や観光地に興味を持つようになった。努力すれば絶対実ります。」とのコメントを寄せてくれました。また、高橋希さんからは「1年生の時も勉強したが、勉強不足で不合格だった。今回は頑張ろうと思い、1日中授業を受け、アルバイトが終わって家に帰っても夜中まで勉強した。今までで一番勉強しました。」とのコメントを、大野安里沙さんからは「先生と一緒に勉強する形だったので楽しく授業を受けることができました。夏休み返上でほぼ毎日学校に通ったので絶対受かりたい!と思って頑張りました。最初は授業内容を理解するのがきつかったけど分かりだすと面白かったです。」とのコメントをそれぞれ寄せていただきました。



張さん(左)、高橋さん(中央)、大野さん(右)

附属看護専門学校が 「平成23年度 看護観発表会」

附属看護

1月11日、2年間の学習の集大成として看護観発表会が行われました。I部では、代表学生3名が「私の考える看護」を発表しました。学生は、病院や施設での臨地実習での患者との関わりや先輩看護師からの助言などの体験から、対象に寄り添う援助の大切さや対象のニーズを把握する重要性を発表しました。

II部では、平成23年度の秋の叙勲・褒章で「瑞宝双光章」を授与されました大分県看護協会の副会長の秋吉信子先生をお招きしました。先生は、元大分赤十字病院看護部長で長きにわたり臨床の現場で看護・教育にご活躍されてます。先生の豊富なご経験から、看護を学ぶ学生に対して、他者に誇れる技術をもつこと、将来像を常に考える学習すること、「先見」をもって行動をすることを教えて頂きました。

参加した学生は、「今やるべきことを実施し、科学的根拠のある看護技術の習得や自己研鑽に努めていき、対象のニーズを充足できる看護師になりたい」と将来像を語っていました。



看護観発表会の様子

明豊祭 「ひとつになろうや!」

明豊高等学校

今年度の明豊祭が「ひとつになろうや!」をメインテーマに開催されました。中学校、高等学校、看護専攻科が、同じ明豊キャンパスで学ぶ仲間として、一つのことを成し遂げようとの呼び掛けがテーマの主旨です。

第一日目はビーコンプラザを会場に、各クラスや吹奏楽部などの発表が中心でしたが、大きな舞台で皆堂々の発表でした。中には、写真部、放送部、文芸部が協力して一つの作品を創りあげるなど、テーマに沿ったコラボレーションが随所に見られました。

第二日目は明豊キャンパスで各クラス、各部の展示を中心に行われました。夏休みから準備してきたクラスの展示はそれぞれに工夫がなされていて楽しいものばかり。また、PTAの協力による食品バザーなど、文字通り文化の秋にふさわしい催しとなりました。

おそろいの明豊Tシャツを着用して、生徒も保護者もわきあいあいとした楽しい二日間を過ごすことができました。二日目は、休日(秋分の日)であったこともあり、近くの中学生や卒業生にも来ていただき、大変活気あふれる明豊キャンパスとなりました。



明豊祭のメインテーマ



生徒による「明豊ソーラン節」踊り

明豊中学校 卓球男子 「全国中学校体育大会」で準優勝!

明豊中学

2011年8月19日、和歌山ビッグホエールにて行われた全国中学校体育大会で明豊中学校卓球部は、準優勝という輝かしい成績をあげてくれました。

準々決勝、準決勝といずれも苦しい戦いでしたが、藤本賢司監督が「どんな状況になっても、最後まであきらめずに戦ってくれた」と評価するように、大接戦を我慢の末、競り勝って決勝進出を果たしました。

決勝戦では、宿敵青森山田中学校に敗れましたが、高橋祐己主将は「準決勝はきつかったけど2人が勝ってくれ、そこから気持ちを切り替えてみんなで取り戻すことができた」と大会を振り返り、チームの団結力の強さを勝因にあげていました。

〈戦績紹介〉

明豊 3-1	岐阜市立長森(岐阜)	明豊 3-2	野田学園(山口)
明豊 3-2	松徳学院(島根)	明豊 0-3	青森山田(青森)



活躍した明豊中学卓球部の皆さん

自分たちのサツマイモでロールケーキ作り

附属幼稚園

4歳児は昨年度より、食物栄養学部の調理室で学生さんと一緒に自分たちが苗植えや収穫をしたサツマイモを使ってサツマイモロールケーキ作りをしています。

今年度は「大学の先生や学生さんと一緒に作ったり栄養について教えてもらったりして、収穫したサツマイモを使って作る楽しさや食べる喜びを味わう」というねらいのもと、11月24日と25日に挑戦しました。生クリームを泡だてたりロールケーキの生地にサツマイモクリームを塗ったりと初めての経験です。学生さんに手を添えてもらったり教えてもらったりしながら作っていました。ロールケーキを巻く作業はどのグループも学生さんと気持ちを一つにしてドキドキしながら巻きます。全員で完成を喜び、みんなでおいしく食べることができました。

自分たちの大切なサツマイモを自分たちの手で、素敵なロールケーキに変身させたことが、作る喜びになりました。



三角巾がよくにあう園児たち

附属幼稚園がソニー教育財団から表彰される

附属幼稚園

本学の附属幼稚園がソニー教育財団の「ソニー幼児教育支援プログラム」で奨励園に選ばれ、2月10日、ソニーセミコンダクタの豊福宏大分総務部統括部長から賞状が授与されました。

今回の受賞は、同財団の「科学する心を育てる」2011年度ソニー幼児教育支援プログラムにおいて、附属幼稚園が昨年（2011年）実施した「きらきらキャンプ」が評価され、奨励園に選ばれたことによるものです。このキャンプは、昨年7月22日・23日に湯布院の「山荘四季」で行った年長児の1泊2日の企画で、園児たちがグループ毎に地図を持って行動したことなどが、レポートにまとめられて財団に報告されました。

審査に当たった秋田喜代美東大教授、神長美津子東京成徳大学教授から「その子らしさを発揮しながら挑戦したり友達と目標に向かって気持ちを合わせたりしている」との評価を受けました。今後もこのような意欲的な取り組みが継続されることを期待します。



豊福会長から賞状を授与される久保田園長

同窓会が教職受験対策セミナーを開催

同窓会

12月3日、別府大学同窓会主催の教職受験対策セミナーを開催しました。講師には元中学校校長、元指導主事、それから現役教師の卒業生3名をお招きして、後輩にアドバイスとエールを送っていただきました。特に現役教師の卒業生からのアドバイスには、教師という仕事の素晴らしさや生徒との関わり、また自分が取り組んできた勉強方法や学生の時に経験しておいた方が良いことなど、写真や映像を使って分かりやすく、そして熱く語っていただきました。学生たちからは「教師になりたいという気持ちが一層強くなった」「つらいと感じた時、先輩方の話を思い出す事ができれば、乗り越えることができると思った」など、教職を目指して日々頑張っている学生たちにとって、とても良い刺激になったように感じました。同窓会では今後も学生に対する各種のセミナーを行っていきたいと考えています。



教職受験対策セミナーの様子

同窓会がホームカミングデーを開催

同窓会

11月5日、石垣祭に合わせてホームカミングデー（卒業生の集い）を開催しました。今回は特別講演として講師に俳優の苅谷俊介氏をお迎えし「土と役者と考古学」というテーマで講演をしていただきました。卒業生を中心に市民の方々、また賀川先生のご家族も駆けつけていただき、100名近くの方が会場に集まりました。役者としてのエピソードや考古学に対する原点、そして賀川先生との出会いなど、考古学への情熱が感じられた講演でした。講演後は懇談会を行い、それぞれ近況報告や母校での思い出話で盛り上がりしました。懇談会には苅谷俊介氏にもご出席いただき、皆さんと気さくに話をしてくださいました。また写真撮影も気軽にに応じてくださり、皆さん大変良い思い出となったようでした。今後も卒業生が気軽に母校へ足を運べるような行事を企画していきたいと思ひます。



講演する苅谷俊介氏

「おもちゃ図書館ボランティア九州・沖縄地区研修会」を開催

本学別府キャンパス内に「大分おもちゃ図書館まこと」（井上秀子代表）が開設されて4年目になります。昨年（2011年）12月11日、おもちゃ図書館全国連絡会が主催する「おもちゃ図書館ボランティア九州・沖縄地区研修会」が、井上代表のお世話で本学を会場に開催されました。

おもちゃ図書館活動は、障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らしさ、遊びの楽しさを知ってもらうために始まったボランティアです。「大分おもちゃ図書館まこと」は2008年に本学内に開設され、障がい児の料理研修会を開催するなど、本学の教育活動と連携した特色ある活動を展開しています。

研修会当日は、県内外から170名の関係者が参加し、本学や県内大学の教員による講演やワークショップ、調理実習などが催されました。今回の研修会を通じて、おもちゃ図書館の活動が広く社会に認知されることを期待したいと思います。



総会で挨拶する
金子短大学長

新聞で紹介された別府大学・短大の活動

(平成 23 年 9 月から 24 年 2 月の主なもの)

新聞社	内 容
西日本 4/17 西日本 8/25、毎日 8/26 朝日 8/28 毎日 8/26、大分合同 9/20 毎日 8/30 今日 9/6 今日 9/12 大分合同 9/30、10/1 読売 9/13 読売 9/13 大分合同 9/15 大分合同 9/16 大分合同 9/17、今日 9/17 大分合同 9/22 西日本 9/23 西日本 9/24 大分合同 9/28、毎日 9/28 今日 10/1 大分合同 10/13 大分合同 9/29 今日 10/3 「東海新聞」10/11 今日 10/8、大分合同 10/8 大分合同 10/8 大分合同 10/8 今日 10/15 読売 10/25、大分合同 11/1 今日 10/17、10/29、11/29 朝日 12/6 大分合同 10/20 大分合同 10/21 大分合同 10/25、今日 10/27 大分合同 10/25 朝日 10/26 大分合同 10/28 大分合同 10/29 大分合同 10/29 大分合同 11/1 今日 11/1、11/5 大分合同 11/2、11/3 西日本 11/4 大分合同 11/3 大分合同 11/4 西日本 11/6 読売 11/7 大分合同 11/8 今日 11/14 大分合同 11/15 大分合同 11/16、朝日 11/24 大分合同 11/18 朝日 11/24 大分合同 11/27 今日 11/25 大分合同 11/25 西日本 11/30 大分合同 11/30 西日本 12/3、大分合同 12/3 大分合同 12/6 大分合同 12/6 大分合同 12/7、今日 12/9 大分合同 12/7 大分合同 12/7 毎日 12/8 大分合同 12/8 大分合同 12/10 今日 12/17 今日 12/16 大分合同 12/17 大分合同 12/21、今日 12/21 西日本 12/21 大分合同 12/26 今日 12/27 大分合同 1/1 大分合同 1/1 大分合同 1/4 大分合同 1/10 大分合同 1/8、今日 1/7 西日本 1/8 大分合同 1/12 西日本 1/6 西日本 1/21、朝日 1/21 今日 1/21、毎日 1/22 読売 1/25、大分合同 1/25 今日 1/23 大分合同 1/26、今日 1/26 大分合同 1/29 大分合同 1/31 大分合同 2/5、朝日 2/7 西日本 2/8、今日 2/13 大分合同 2/4 大分合同 2/6 大分合同 2/9 今日 2/9 大分合同 2/11 大分合同 2/14 大分合同 2/14、今日 2/14 今日 2/15	災害現場の救援者のストレス家族や周囲はどうサポートする? 休息で"リセット" 【大島潤平准教授(人間関係学科)】 白田市の永山城跡・発掘調査「戦い想定した構造」判明 28 日現地説明会 【上野淳也助教(史学・文化財学科)】 中津・浄安寺の本尊平安時代後期の作と判明 【渡辺文雄教授(史学・文化財学科)】 白田市の永山城跡説明会にファン 80 人 【文化財研究所】 別府大でハーブ料理教室 風味豊かな献立に舌鼓 【大分香りの博物館・立松洋子教授(短大食物栄養科)】 1 日、2 日別府大で日本経営診断学会の全国大会 【国際経営学部】 日田市永山城の本丸御殿礎石 7 基など発見 【文化財研究所】 全九州女子学生剣道大会 別府大女子剣道敢闘賞輝く 【女子剣道部】 広瀬淡窓咸宜園 拓本講座に 30 人 【書道研究室】 佐伯で研修会 米粉需要拡大へ 50 人が知識学ぶ 【立松洋子教授(短大食物栄養科)】 別府大で外国人留学生秋季入学式 中国・韓国など 81 人 「学んで夢実現」 別府大留学生が「ゆかたのタペ」住民と 踊りの輪 終戦の日に新聞休刊とは 紙面評価 【辻野功客員教授】 かけこで 1 番になる!! 運動会のパワーアップ弁当 【平川史子准教授(食物栄養学科)】 別府短大で災害時の非常食上手にアレンジ講習会 災害時でも栄養取れる 【短大食物栄養科】 私の紙面批評 人生の「終活」踏み込んで 【飯沼賢司教授(史学・文化財学科)】 「けんしん美術館」けんしん大賞に大田黒さん、審査員特別賞に後藤さん、特別賞に新城さん 【別府大学】 別府大公開講座 書物の歴史テーマに来年 1 月まで 「書道のかやぐ」親子でつくる郷土料理教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 別府短大で乾ししいたけの料理講習 フラヤにぎり寿司 【短大食物栄養科】 アスリートへの食事 野菜中心に栄養管理 【平川史子准教授(食物栄養学科)】 女子剣道部 鈴木郁恵 スポーツ選手は食事が大切 【女子剣道部】 マンガ武道のすめを発行 【田代為寛教授(国際言語・文化学科)】 24 日から秋季企画展「大航海時代と豊後」開催 12 月 3 日にシンポジウムも 【附属博物館・文化財研究所・アジア歴史文化研究所】 農業文化公園で別府大生が稲刈り 棚田で赤米作り 【夢米棚田チーム(別府大学)】 高齢者の食事は素材や味好みに配慮 【平川史子准教授(食物栄養学科)】 第 9 回鬼の岩屋まつりが 29 日 30 日に開催 別府大学の教員・学生が古墳について説明 【史学・文化財学科】 大分合同新聞文化賞 学術に別府大学長 豊田寛三 【豊田寛三別府大学長】 別府大生らに赤米収穫 【夢米棚田チーム(別府大学)】 大分春陽会展 目を引いた若手の作品多数 【松本篤教授(国際言語・文化学科)、野村正則教授、有吉宏朗助教(短大初等教育科)】 WASHOKU運動 食育推進短大生らが知事を訪問 【短大食物栄養科】 「男子キッチンチャレンジクラブ」参加者募集 【平包留美准教授(短大食物栄養科)】 別府大生の「BBS会」法務大臣から感謝状 思いやりの心育み 10 年 【別府BBS会】 5・6 日別府大石垣祭開催 大分で「大洲書道会展」力強さと繊細さ魅了 【荒金信治教授(国際言語・文化学科)】 「発酵食品は微生物の贈りもの」 【古川謙介教授(発酵食品学科)】 大分合同新聞文化賞の表彰式、新たな研究への歩みと豊田寛三学長 【豊田寛三別府大学長】 発足 10 年目を機にさらなる発展を目指す 別府BBS会長 眞部愛美さん(「ひと」欄) 【別府BBS会】 別府大の吹奏楽団が演奏で応援 【別府大学吹奏楽部】 鉛から文化財の原産地解明の第一人者平尾良光教授(「きりり」欄) 【平尾良光教授(史学・文化財学科)】 別府短大生が手作りのカレンダー配布 【短大食物栄養科】 終戦直後のレシピ再現 とても健康的なメニュー 【中嶋加代子教授(短大食物栄養科)】 「旬のサツマイモを使ってしんちよ餅」親子でつくる郷土料理教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 「おおいだWA-SHOKU女子隊」が宣伝 竹葉で「じり焼き」アレンジ 【短大食物栄養科】 多面的な機能持つ農業 「国民が支える」議論して 中川隆助教 【中川隆助教(国際経営学科)】 別府大生体験 赤米の脱穀音ながらに 【夢米棚田チーム(別府大学)】 追い掛けても相識に 佐藤敬子准教授「月刊おっ」 【佐藤敬子准教授(キャリア支援センター副センター長)】 附属幼稚園が収穫したサツマイモ使い大学生とケーキ作り 【食物栄養学科】 学生防犯ボランティア「バトロックス」本格始動 【学生防犯バトロール】 食中毒予防には健全な衛生管理が大切です 【松本比佐志(食物栄養学科)】 シン、シカおいし国際的 シビ工料理活用短大留学生が料理紹介 【短大食物栄養科・留学生】 別府大学文化財研究所竹田センター開設 竹田市双城中学校跡地 「キッパン甘栗」親子でつくる郷土料理教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 大林倉庫跡地を監視カメラで監視 【別府大学短期大学部(大分キャンパス)】 47 都道府県オリジナルが考案 福岡学院と高大連携 【短大食物栄養科】 親子でクリスマス料理 別府大の地域交流教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 宗廟との関係性は不明 ロシア大別府大が分析 【平尾良光教授(史学・文化財学科)】 11 日「紙園坊」講演会 【荒金信治教授(国際言語・文化学科)】 東南アジアの船の物流をたどる 研究成果約 200 点 【平尾良光教授(史学・文化財学科)】 アスリートの食事にアドバイス(ババシ大分定永選手) 【平川史子准教授(食物栄養学科)】 豊の国千年ロマン観光圏シリーズ講座終了 【歴史文化総合研究センター】 大分県は自然エネルギーの宝庫 阿部博光教授が講演 【阿部博光准教授(国際経営学科)】 別府大学留学生二輪車講習に参加 県内企業 79 社参加 別府大で合同企業説明会開催 3 年と短大 1 年 500 人が参加 おせち料理と栄養 【星野隆教授(食物栄養学科)】 私の紙面批評 TPP多面的に議論を 【飯沼賢司教授(史学・文化財学科)】 おせち料理作りの授業 いろいろといきかに 17 品目 【短大食物栄養科】 災害時の調理レシピ紹介 炊飯袋で残り物一工夫 【立松洋子教授(食物栄養科)】 アジア関係の大学院創設へ準備 【日高祐一郎理事長】 亡き父作成 小さな千支の彫り物(「灯」欄) 【後藤崇俊名誉教授】 「おいだせ」親子でつくる郷土料理教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 高級の麻織「大分」を穿る手付のワッフルなど 88 枚 【初等教育科・保育科・専攻科初等教育専攻】 発電の在り方考える年に 【阿部博光准教授(国際経営学科)】 鉛を分析し産地推定 科学的な手法で史実の解明に取り組み(「ひと」欄) 【平尾良光教授(史学・文化財学科)】 身体を温める食物を食べてウイルスをやっつけよう 【仙波和代准教授(食物栄養科)】 別府大学主催大分ユニモアまんが大賞に 2 氏 8 ～ 82 歳 160 人、235 作品応募 【国際言語・文化学科】 大分合同新聞文化賞豊田寛三さんの受賞を祝う 旧正月祝いぎょうざ作り 別府短大留学生ら地域の人が抱いて 【短大地域総合科学科】 韓国の学生対象に別府大でセミナー 日本文化を学ぶ 日本の発酵食品は栄養的に優れている 【岡本啓湖教授(発酵食品学科)】 作るアジアのシビ料理 留学生らのレシピ 13 種類紹介 【短大食物栄養科】 別府大卒業生イスラム食材のレストラン開店 戒律に触れないメニューを提供 後輩留学生のために 別府大と韓国の 2 校が交流協定 母の優しさ 風邪をひいたときのサイダーと目玉焼き(「灯」欄) 【後藤崇俊名誉教授】 別府大学卒業制作展 自己表現への挑戦 【芸術文化学科(国際言語・文化学科)】 別府大の教授 3 名が最終講義 【後藤崇俊名誉教授、橋昌信名誉教授、丑木幸男教授(史学・文化財学科)】 アスリートの食事にアドバイス(明豊高 3 年 江藤雄選手) 【平川史子准教授(食物栄養学科)】 「無塩汁」親子でつくる郷土料理教室 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】 別府大学国際セミナーの受講生 明星小学校児童と交流 【別府大学国際セミナー】 別府大学附属幼稚園 ソニー教育財団から奨励園に選出、受賞(夏のキャンプを評価) 【別府大学附属幼稚園】

教員の出版コーナー

(平成 23 年 3 月～平成 24 年 2 月の主なもの。共著を含む。)

図 書 名	発 行 所	氏 名 (所 属)
「マンガ・武道のすめ」	日本武道館	田代為寛教授(国際言語・文化学科)
「Ferne Gefahrten」	MANNHEIM	安松みゆき教授(国際言語・文化学科)
「日本語教育能力検定試験 重要キーワード集300」	アルク	篠崎大司准教授(国際言語・文化学科)
「上野国神社明細帳 23～25」	群馬県文化事業振興会	丑木幸男教授(史学・文化財学科)
「シリーズ日本列島の三万五千年～人と自然の環境史～第2巻 野と原の環境史」	文一総合出版	飯沼賢司教授、上道雄教授、下田教授(史学・文化財学科) 中川隆助教(国際経営学科)
「(西国における生業と流通 日本中世の西国社会②)」	清文堂出版	飯沼賢司教授(史学・文化財学科)
「新「関ヶ原合戦」論 定説を覆す史上最大の戦いの真実」	新人物往來社	白崎旬教授(史学・文化財学科)
「別府大学文化財学論集―後藤宗俊先生古希記念―」	クリエイツ	上野淳也助教(史学・文化財学科)、玉川剛司(教務課)
「サステイナブル社会の構築と政策情報学 環境情報の視点から」	福村出版	篠藤明徳教授(人間関係学科)
「システク科学事典」	実務教育出版	矢島潤平准教授(人間関係学科)
「栄養科学シリーズNEXT 運動生理学 人体の構造と機能」	講談社	安房田司郎教授(食物栄養学科)
「医療倫理学の基礎(総論)」	時空出版	野村文宏准教授(食物栄養学科)
「食べ物と健康 一食品の栄養成分と加工―」	同文書院	高松伸枝准教授(発酵食品学科)
「オルタナティブ・フェイスを聞く エスニシティとジェンダーで読む現代英語圏文学103選」	青羽書房鶴見書店	三重野佳子准教授(発酵食品学科)
「大分発 自然エネルギー―最前線―自給率日本一の実力―」	大分合同新聞社	阿部博光准教授(国際経営学科)
「社会経営学研究―経済競争の経営から社会共生的経営へ―」	晃洋書房	中道眞准教授(国際経営学科)
「畜産の情報」	(独) 農畜産業振興機構	中川隆助教(国際経営学科)
「食品衛生学実験」	光正館	中嶋加代子教授(短大食物栄養科)
「学びと教えて育つ心理学 ―教育心理学入門―」	保育出版社	山村廣光教授(初等教育科)
「実践から学ぶ 社会的養護の内容」	保育出版社	中川頭准教授(初等教育科)

編集後記

今号では、特集として短期大学部創立60周年に向けての企画(大分キャンパスの取組)と本学の「高大連携」の取組を取り上げました。大分キャンパスの地域総合科学科の新たな教育システムや保育科の伝統的な保育士教育に、ご注目ください。また、本学は地域貢献を大学の使命の一つとして位置づけており、その一環として「高大連携」に取り組んでいます。これからも「前進する別府大学」の姿を本誌で紹介していきたいと思ひます。

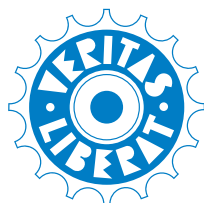
(友永)

表紙の挿絵



「群」S100 油彩
大田黒 翔代(芸術文化学科 研究生)

作者コメント
日常の中に潜む無防備な輝きは 開かれた窓から、夢見心地な光となって流れ込んでくる。



真理はわれらを自由にする

Be-News 2012.Spring (別府大学通信 No.104)

編集 別府大学メディア教育・研究センター 広報部
発行日 平成 24 年 3 月 10 日
印刷 佐伯印刷株式会社
